

平成 30 年度 第 1 回
み と 好 文 カ レ ッ ジ 運 営 審 議 会

日 時 平成 30 年 7 月 30 日 (月)
午後 2 時 30 分 ~ 4 時 00 分
場 所 水戸市農業委員室

み と 好 文 カ レ ッ ジ

次 第

- 1 開会
- 2 運営審議会委員委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 議題
 - ◎ 報告事項
 - (1) 平成30年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について
 - (2) 平成30年度みと好文カレッジ事業実施計画について
 - (3) 平成30年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標について
 - ◎ 協議事項
 - (1) 「さきがけ塾」第5期生募集について
 - (2) その他
- 5 閉会

報告事項(1)

平成 30 年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について

1 運営方針

生涯学習都市宣言を踏まえ、水戸市生涯学習推進基本計画（第4次）に基づく施策を推進し、現代の大きな課題である少子高齢化、高度情報化、地域社会における連帯感の欠如や家庭の教育力の低下等の現代的課題解決のための学習機会を提供するとともに、学んだ成果が地域活動やまちづくりにつながるよう人材の育成に努める。

また、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、時代の新たな課題に対応した企画や学習プログラムの開発に努める。

さらに、市民の生涯学習活動の振興を図るために、社会教育活動について、基礎的なことからより専門的・実践的な知識や技術について、市民センター職員の力量を高める研修の機会を充実させ、地域と連携した現代的課題に対する事業の取り組みなど、支援・指導の強化に一層努める。

2 主要施策

(1) 市民センターへの支援・指導

ア 東湖塾の開催

市民センター職員に生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や家庭教育の支援の強化など専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会等を開催する。

さらに、現代的課題解決に向けた学習プログラムの研究・開発を行うとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応え、時代にあった新しい講座を発掘し、先進的な市民センター講座として提案する。

- (7) 新任職員研修（集合研修，訪問研修）
- (4) 全体研修（集合研修，ブロック研修，訪問研修）
- (9) 学習プログラム作成研修（ブロック研修，訪問研修）

イ 好文塾の開催

東湖塾で研究・開発された現代的課題を取り扱った学習プログラムの作成企画講座が、市民センター事業として根付くよう「好文塾」と名づけ、市民センターとみと好文カレッジの共同事業として開催する。また、作成した学習プログラムがすべての市民センターにおいて取り組めるようモデル事業として位置づけ、市民センター活動を支援する。

- (7) ブロック単位の市民センター職員とみと好文カレッジ職員で企画した学習プログラム講座の開催
- (4) 単独の市民センター職員とみと好文カレッジ職員で企画した学習プログラム講座の開催

ウ 市民ニーズに対応した学習機会の提供

市民の学習ニーズの把握に努め「個人の要望」や「社会の要請」に応じた学習をバランス良く提供できるよう市民センターの支援を行う。

- (7) 市民ニーズを捉えた学習機会の提供
- (4) 市民センター事業の現状と課題の調査

エ 事業評価の推進

講座や事業に参加した市民が日常生活の中で、学習の成果をどのように活かしているのか、また、地域の中で、どれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求られている。そのため、市民センターにおいては、実施した講座や事業の自己評価を行うとともに、運営審議会等による自己評価に基づいた第三者評価を行い、より効果的な事業運営を進められるよう事業評価を推進する。

また、みと好文カレッジ等による事業評価制度導入について検討を進める。

- (7) 市民センターによる自己評価の実施
- (4) 市民センター運営審議会委員による第三者評価の実施
- (9) みと好文カレッジ等による事業評価制度導入の検討

(2) 全市的な生涯学習の推進

ア みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題、いわゆる現代的課題解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果を生活の充実や向上に生かされるよう内容の充実を図る。

また、時代にあった講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による先進的な学習プログラムを市民に提供する。

イ 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、子育てに関する講座や学習機会を提供する「子育て応援塾」を開催する。

- (7) 親業訓練入門講座

ウ 生涯学習サポーターチャレンジ講座「さきがけ塾」の開催

生涯学習活動をとおり、市民と行政とのまちづくりに携わる人のために「さきがけ塾」を開催する。講座では、市民生活を豊かにする学習プログラムを考え、実施に向けた方法を探り、行政が主催する講座の企画・実施に参画する人材の確保を図る。

エ 「水戸市生涯学習サポーター」活動の推進

「さきがけ塾」修了生が登録する「水戸市生涯学習サポーター」による市民と行政との協働企画講座を開催し、安心安全なまちづくりを推進する。

オ パイロット事業の開発・研究

現代社会の課題や人づくりをテーマとしたもの、専門性の高い講座など、先進的な講座を開発・研究し、開発した講座を各市民センター等の社会教育施設や地域団体でも実施できるよう支援する。

カ ほっとひといき夢らんの開催

家庭教育支援事業の一環として、1歳6ヶ月から4歳未満までの未就園児とその保護者を対象に、子ども同士が遊んだり、子育て支援サークルのメンバーと情報交換を行う場を提供するとともに、家庭教育に関する講座を開催することによって、育児に対する悩みやストレスを解消できるよう子育て支援を推進する。

キ 「あなたも師・達人制度」の活用促進

「あなたも師・達人制度」の登録指導者の募集や活用を広報「みと」やホームページをはじめ各種広報媒体により周知を図るとともに、市民センター等の社会教育施設やPTA、ボランティア団体、NPO等が主催する講座や研修会の講師として積極的に紹介し、登録指導者の有効活用を促進する。

ク 育児ボランティア制度の利用促進

子育て中の保護者が生涯学習活動に参加しやすくするため、講座開催中に別室で子どもを預かる「育児ボランティア制度」の利用促進と登録ボランティアの拡充を図るため、市民センター等の社会教育施設や社会教育関係団体に積極的に紹介し、制度の利用を促進する。

ケ 学習情報の提供

生涯学習活動の推進を図るために、みと好文カレッジの事業等を掲載した生涯学習情報誌の発行や見やすいホームページへの更新をするなど、本市の生涯学習活動を積極的にPRする。

コ 学習相談事業の充実

市民やボランティア団体等の生涯学習相談に対して、相談内容や相談分野に応じて適切で役立つ助言ができるよう、各種生涯学習情報の収集と整理をすすめ、学習相談事業の充実を図る。

カ 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有化するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図る。

シ 水戸市生涯学習推進基本計画（第4次）に基づく施策の推進

生涯学習社会の実現を目指し、水戸市生涯学習推進基本計画（第4次）に基づく施策を推進する。

セ 水戸市訪問型家庭教育支援事業の実施

地域人材を活用した家庭教育支援員を派遣し、未就学児の保護者等へ家庭教育支援を実施する。

報告事項(2)

平成 30 年度みと好文カレッジ事業実施計画について

1 市民センターへの支援・指導

(1) 東湖塾

市民センター職員に生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会等を開催する。

さらに、現代的課題解決のための学習プログラムの研究・開発を行うとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応え、時代にあった新しい講座を発掘し、先進的な市民センター講座として提案する。

研修方法は、一堂に会する「集合研修」と各市民センターへ出向く「訪問研修」を取り入れる。

ア 新任職員研修

市民センターに人事異動により新たに着任した者や新規採用者を対象に、市民センター職員として事務事業を遂行するための基本的知識を身につける。

(ア) 集合研修

- 対象者 平成 30 年度新任市民センター所長及び新任嘱託員 19 名
- 参加者 総数 19 名
- 内 容

日 時	内 容	説 明 者	会 場
4 月 17 日 (火) 9 時 30 分～14 時 30 分	市民センターについて	市民生活課副参事	本庁舎南側 臨時庁舎 2 階 農業委員室
	生涯学習の推進について	生涯学習課長	
	避難所運営等について	防災・危機管理課 危機管理室長	
	電送窓口関係について	市民課窓口第 1 係長	

(イ) 訪問研修

- 対象者 平成 30 年度新任所長及び新規採用嘱託員 20 名
社会教育事業担当嘱託員 22 名
- 内 容 ①市民センターの運営について、②生涯学習の推進について
- 日 程 ※別添資料一覧「平成 30 年度東湖塾訪問研修」を参照

※上記計画のほか、市民センターからの要請（疑問や問題軽減）を受け、訪問研修を実施する。

イ 全体研修

市民センター職員として、生涯学習の中の社会教育事業を推進していくための基礎知識の習得や事業の企画立案の進め方など、職員の支援にあたる。

(ア) 集合研修「市民センター所長研修会」

- 対象者 全市民センター所長
- 内 容 青少年教育の必要性の認識や、青少年事業に対する更なる意識の向上を図る。
「地域の力が絆をつくる～「あそび」が心を育てる～」
- 日 時 平成 30 年 6 月 5 日 (火) 午前 10 時 50 分～午前 11 時 50 分まで
- 会 場 本庁南側臨時庁舎大会議室

(イ) ブロック研修「意見交流会」

- 対象者 ①西部ブロックの嘱託員，②北部ブロックの嘱託員
- 内 容 市民センターにおける生涯学習等を進める上で疑問に感じている事について，同じ業務に携わる嘱託員同士が一堂に会し意見交換を行うことにより，ブロック内職員の交流を深め事務の効率化を図る一助とする。
- 日時，会場 現在調整中

(ウ) 学習プログラム作成研修

社会教育事業に従事する職員として，高度で多様化した住民のニーズに対応するため，専門的・実践的な知識や技術を身につけ，地域住民に様々な学習の機会を提供する必要がある。

そこで，市民センターの職員を対象に，現代的課題や地域課題の見出し方や課題解決のための学習プログラム作成に関する知識や技術を習得することを目的とする。

- 対 象 市内6ブロックの内から1ブロックを指定して開催しており，今年度は南部ブロック（緑岡，見和，寿，千波，笠原，見川市民センター）の各市民センター選出の嘱託員。なお，研修を希望する個別の市民センターにも対応する。
- 内 容 同じブロックの職員が共同で地域課題の整理や学習プログラムのテーマを決定し，ブロック内の地域住民を対象とした講座を企画・実施する。
- 日 程 平成30年6月から9月までに4回程度実施予定
- 会 場 見和市民センター

(2) 好文塾

東湖塾で研究・開発された現代的課題を取り扱った学習プログラムの作成企画講座が，市民センター事業として根付くよう「好文塾」と名づけ，市民センターとみと好文カレッジとの共同事業として開催する。また，作成した学習プログラムが全ての市民センターにおいて取り組めるようモデル事業として位置づけ，市民センター活動を支援する。

ア 南部ブロック好文塾

- 対象者 南部ブロック内住民（緑岡，見和，寿，千波，笠原，見川市民センター）
 - 内 容 南部ブロックの職員が学習プログラム作成研修で企画する講座を実施
「ビューティプロジェクト～知って得する自分の体～」
- ※会場，日時については，現在調整中

2 全市的な生涯学習の推進

(1) みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し，人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要がある課題，いわゆる現代的課題解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに，学んだ成果を生活の充実や向上に活かされるよう内容の充実を図る。

また，時代にあった講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による学習プログラムを市民に提供する。

ア 茨城しぐさ

「相互扶助」や「共生」の精神を学び，「お互いが仲良く，気持ちよく生活する」ための方策を考えることにより，規範意識の向上と良好な人間関係を築く一助とすることを目的とする。

- 対象者 小学4年生から中学3年生及びその保護者。学校単位で募集（現時点での申込校は2校（内原・河和田小学校），継続募集中）。
- 講 師 NPO法人 ひと・まちねっとわーく
- 日 程 平成31年2月28日（木）まで

※講座内容等については、別添資料「みと弘道館大学 茨城しぐさ 募集案内」を参照

イ ゼロからはじめるシニアパソコン教室

市内のシニア世代を対象に、インターネットの使い方や簡単な文書作成などを体験していただき、ITをより身近に感じていただく契機とするとともに、教員の指導のもと、生徒がこれまでに習得した知識やスキルを生かして参加者に指導を行うことにより、地域住民への社会貢献へとつなげる。

- 対象者 概ね50歳以上の水戸市在住のパソコン初心者
- 定員 20名（定員を超えた場合は抽選、結果は申込者全員に通知）
- 参加費 1,000円（テキスト代として）
- 日程 8月27日（月）・28日（火）10時～12時、13時～15時
- 共催 水戸女子高等学校
- 講師 水戸女子高等学校商業科教員（アシスタントとして同校商業科生徒）
- 内容

	時間	内容	指導
1日目	10時～12時	触ってみよう！キーボード	水戸女子高等学校商業科教員及び同校商業科生徒
	13時～15時	インターネットで検索してみよう！	
2日目	10時～12時	パソコンでメッセージカードを作ってみよう！	
	13時～15時	メッセージカードに写真・イラストを取り込んでみよう！	

ウ 水戸市生涯学習サポーター活動の推進

人材育成講座「さきがけ塾」の修了生が水戸市生涯学習サポーターに登録し、みと好文カレッジとの協働企画講座を市民に提供する。現在の登録者数は、第1期生から3期生までで37名である。今年度9月に「さきがけ塾」4期生が修了することから、サポーターへの登録者数が増える見込みである。

生涯学習サポーター企画講座

	テーマ	日程等
1	家庭教育「新学習指導要領からプログラミング教育、大学受験制度等」	11月11日（日）
2	I LOVE 納豆 Part. 3	10月下旬～11月予定
3	つくば最新研究情報政策 Part. 4	9月～10月
4	出前講座 開放学級のお友達とドーンとやってみよう ー夏季休業中の放課後子ども教室（開放学級）の支援事業ー	7月27日～8月9日 3小学校各3講座
5	生涯学習・終活関係	調整中
6	親子宿泊「星の観察」	2月予定

(2) 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、子育てに関する講座や学習機会を提供する「子育て応援塾」を開催する。

ア 親業訓練入門講座

グループディスカッションやロールプレイなどの体験学習を通して、親としての役割や子どもとのコミュニケーションの取り方について考え見つけ直す場面を多く取り入れ、家庭の教育力の向上を目指す。

- 対象者 妊娠期の母親，乳幼児期から高校生までの子を持つ保護者，その他保育に関わる業務を行う方
- 定員 20名（託児付き）
- 講師 親業訓練シニアインストラクター・コミュニケーションリーダー1級
中島 由佳子

○内容

内容	日時	会場
(1) 親には役割があるの？	11月11日（日）	水戸市福祉ボランティア会館 ミオス
(2) 子どもと接するのって難しい？	9時30分	
(3) 子どもの気持ちがわかる？	～16時30分	

イ 家庭教育出前講座

保護者が家庭教育の重要性を改めて認識し，子どもたちが家族の触れ合いを通じて，「生きる力」を育めるよう，講師が幼稚園等に出向き，家庭教育に関する講座を開催する。

- 対象者 私立幼稚園，認定こども園の保護者，教員等。園単位で募集（現時点での申込園は3園（大塚ひのまる，水戸，水戸英宏愛宕）継続募集中）。
- 会場 各私立幼稚園，認定こども園
- 内容
 - ①「絵本で広げる夢のコミュニケーション」
朗読・読み聴かせの専門家である講師から効果的な読み聴かせの方法や絵本がもつ間接体験の意義等を学ぶ。
 - ②「心がつながるコミュニケーション」
グループディスカッションやロールプレイなどの体験学習を通して，親としての役割や子どもとのコミュニケーションについて考え，見つめなおす場面を多く取り入れたワークショップ形式の講座
- 日程 平成31年2月28日まで

(3) 「さきがけ塾」の開催

生涯学習活動をとおり，市民と行政とのまちづくりに携わる人のために「さきがけ塾」を開催する。ここでは，市民生活を豊かにする学習プログラムを考え，実施に向けた方法を探り，行政が主催する講座の企画・実施に参画する人材の確保を図る。

- 対象者 生涯学習や学習プログラムの作成に関心のある市民
- 回数 月1～2回，水曜日18時30分～20時30分 各年20講座程度
- コース 「参画と協働のひとづくり・まちづくりコース」
- 受講生 23名
- 会場 水戸市五軒市民センター 201号室
- 内容 さきがけ塾第四期生・二年次

回	実施日	講座内容	講師等
12	4月11日（水） 18時30分～ 20時30分	学びからアクションへ 学習プログラムづくり⑤	NPO法人ひと・まちなつとわーく 高瀬 利博，綿引 均 生涯学習サポーター 小平 文和
13	4月25日（水） 18時30分 ～20時30分	学びからアクションへ 学習プログラムづくり⑥	NPO法人ひと・まちなつとわーく 高瀬 利博，綿引 均 生涯学習サポーター 小平 文和
14	5月9日（水） 18時30分 ～20時30分	ためして合点！私たちの企画	NPO法人ひと・まちなつとわーく 高瀬 利博

15	5月23日(水) 18時30分 ～20時30分	アンケートづくりの基本	生涯学習サポーター 小平 文和
16	6月20日(水) 18時30分 ～20時30分	水戸の観光と歴史	歴史文化財課埋蔵文化財センター 所長 関口 慶久
17	7月11日(水) 18時30分 ～20時30分	水戸の防災	防災機器管理課危機管理室 室長 小林 良導
18	8月8日(水) 18時30分 ～20時30分	プログラム実践力アップ講座	生涯学習サポーター 金澤 正巳
19	9月12日(水) 18時30分 ～20時30分	講座を開講しての振り返り これからの講座づくりに生かす	NPO法人ひと・まちねっとわーく 高瀬利博
20	9月26日(水) 18時30分 ～20時30分	記念講演 修了式及びサポーター認証式	弘道館 小畑 のり子

【参考】 さきがけ塾の開始(平成22年10月)

- 第1期 子育て支援コース・地域支援コース
- 第2期 粋な幸齢期コース・暮らしと環境コース
- 第3期 社会の宝(子ども)育成コース・縁がたなぐコミュニティコース
- 第4期 参画と協働のひとづくり・まちづくり

(4) 「さきがけ塾」塾生との協働企画講座

市民と行政との協働による学習講座の企画・実施に携わる「水戸市生涯学習サポーター」を目指し、「さきがけ塾」第四期生のテーマ『参画と協働のひとづくり・まちづくり』を学んだ受講生が、学習の成果として作成した講座を市民に提供する。

- 「跳んで翔んでイキイキ人生」7月21日(土)～8月25日(土)のうち4講座開講
- 「夏はのびのび親子じかん」7月21日(土)～8月26日(日)のうち4講座開講

※講座内容については、別添資料一覧「「さきがけ塾」塾生との協働企画講座募集案内」を参照

(5) 「ほっとひといき夢らんど」の開催

家庭教育支援事業の一環として、1歳6ヶ月から4歳までの未就園児と保護者を対象に、就園前に集団の中で子ども同士が遊んだり、子育て支援サークルのメンバーと意見交換を行う場を提供するとともに、家庭教育に関する講座を開催することによって、育児に対する悩みやストレスを解消できるよう子育て支援を推進する。

- 対象者 Aコース 水戸市在住の1歳6か月から2歳6か月までの未就園児と保護者
Bコース 水戸市在住の2歳6か月から4歳までの未就園児と保護者
- 日 時 Aコース 毎月第1木曜日 毎回午前10時～11時30分
Bコース 毎月第3木曜日 毎回午前10時～11時30分
- 会 場 水戸市福祉ボランティア会館(ミオス)
- 受講者 Aコース 親子25組
Bコース 親子25組
- 参加費 各コース親子で1,000円(年間材料費)

○内 容

A コース 開催日	内 容 講 師	Bコース 開催日	内 容 講 師
6月7日	ミュージック・ケア① 音楽療法士 松本 鈴子 音楽療法士 井澤 満代 えくぼ会7名	5月17日	ミュージック・ケア 音楽療法士 松本 鈴子 音楽療法士 川又 康子 えくぼ会7名
7月5日	遊んで学ぼう① (七夕) えくぼ会7名 ピアノボランティア 井上 文代	6月21日	親子体操「運動会」 特別支援教育支援員親子体操講師 青木 千鶴子 えくぼ会6名
8月9日	親子ヨガ キッズヨガインストラクター 子安 美穂 ベビーマッサージ協会 渡邊 江津子 えくぼ会8名 上の子の託児 (実技研修室) Wa' m くる代表 佐藤 友美乃 水戸市サブリーダーズ会 3~5名	7月19日	親子劇遊び① (大きなかぶ・はらぺこあおむし) 特別支援教育支援員親子体操講師 青木 千鶴子 ピアノ講師 井上 文代 えくぼ会6名
9月6日	遊んで学ぼう② (小麦粘土) えくぼ会7名 ピアノボランティア 井上 文代	8月16日	遊んで学ぼう① (魚つり) えくぼ会7名 ピアノ講師 井上 文代 上の子の託児 (実技研修室) Wa' m くる代表 佐藤 友美乃 水戸市サブリーダーズ会 3~5名
10月4日	親子料理教室① (花巻寿司・お花) 料理研究家 野口 和子 料理研究家 水沼 清子 えくぼ会7名	9月20日	親子料理教室① (マサラカレー) 有限会社マサラプラスワン代表取締役 綿引 均 えくぼ会6名
11月1日	親子体操 (運動会) 特別支援教育支援員親子体操講師 青木 千鶴子 えくぼ会7名	10月18日	遊んで学ぼう② (ハロウィン) えくぼ会7名 ピアノボランティア 井上 文代 Wa' m くる代表 佐藤 友美乃
12月6日	遊んで学ぼう③ (クリスマス会) えくぼ会7名 ピアノボランティア 井上 文代 Wa' m くる代表 佐藤 友美乃	11月15日	親子料理教室② (パトウーラ) 有限会社マサラプラスワン代表取締役 綿引 均 えくぼ会6名
1月10日 [第2木曜日]	親子料理教室① (M' s キッチン) 森永乳業(株) えくぼ会7名	12月13日	親子劇遊び② (三匹のこぶた・てぶくろ) 特別支援教育支援員親子体操講師 青木 千鶴子 ピアノ講師 井上 文代 えくぼ会6名

2月7日	ミュージック・ケア② 音楽療法士 松本 鈴子 音楽療法士 井澤 満代 えくぼ会7名	1月17日	親子料理教室③（花巻寿司・タコさん） 料理研究家 野口 和子 料理研究家 水沼 清子 えくぼ会7名
3月7日	遊んで学ぼう④（お別れ会） えくぼ会7名 ピアノボランティア 井上 文代 Wa'mくーる代表 佐藤 友美乃	2月28日	遊んで学ぼう③（お別れ会） えくぼ会7名 ピアノボランティア 井上 文代 Wa'mくーる代表 佐藤 友美乃

※講座内容等については、別添資料一覧「ほっとひといき夢らんど 募集案内」を参照

(6) 育児ボランティア「えくぼ会」研修会

育児ボランティア中、事故や災害があった時のために応急手当の具体的な説明、実技「自動体外除細動器（AED）」を通し、とっさの時に対応できる救命方法を学ぶ。

また、託児中に活用できるような技術の習得や、会員同士の親睦を図ることにより、託児中のコミュニケーションを円滑にできるようにする。

○対象者 育児ボランティア「えくぼ会」会員

○内容

名称	普通救命講習Ⅲ	育児ボランティア研修
講師	水戸地区救急普及協会	有限会社マサラプラスワン代表取締役 綿引 均
日程・会場	平成30年4月11日（水） 13時～16時30分 水戸市福祉ボランティア会館（ミオス）	平成30年9月（現在調整中） 9時から13時30分 水戸市福祉ボランティア会館（ミオス）
定員	18名	25名

(7) 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図る。

ア NPO法人 ひと・まちなつとわーくとの連携事業「茨城しぐさ」

イ 水戸女子高等学校との連携事業「みと弘道館大学 ゼロからはじめるシニアパソコン教室」

ウ 茨城県水戸生涯学習センターとの連携事業「調査研究・学習プログラム普及事業」に係る「Youth 育成プログラム～若い力でわくわくワーク～（水戸市）」

※ア、イとも「2 全市的な生涯学習の推進 （1）みと弘道館大学の開催」参照

ウは昨年度からの継続事業に伴い、モデル事業として水戸市での実施

(8) 水戸市訪問型家庭教育支援事業

核家族化や少子化等による地域のつながりの希薄化などにより、家庭教育を支える環境は大きく変化するとともに、家庭をめぐる問題が複雑化しており、社会全体で家庭教育を支援する必要性が高まっている。

特に、家庭でのしつけや子どもへの関わり方などについて、悩みを抱える保護者などに対して、必要な情報提供や相談的関わりを行い、家庭の教育力を向上させるための取組を推進する。

ア 事業内容

(ア) 水戸市訪問型家庭教育支援推進協議会の設置

(イ) 訪問型家庭教育支援事業の実施

(ウ) 保護者に対する家庭教育に関する講座の実施

(エ) 親子参加型の講座の実施

イ 支援対象家庭

概ね3歳から5歳までの未就学時の子どもを持ち、様々な理由により、家庭での教育力が低下している家庭に対し支援を行う。平成30年度は、モデル的に、保健センターで実施する3歳児健診等においてアンケートを実施し、その結果に基づき、ケース会議等を経て、支援を必要とする家庭に対し、相談対応、情報提供、専門機関との連携等を行う。

報告事項(3)

平成 30 年度水戸市市民センター運営方針及び重点目標

運 営 方 針

近年、人口減少社会や超高齢社会の到来をはじめ、都市化の進展、価値観の多様化、生活圏の拡大など、市民を取り巻く状況は大きく変化している。

こうした状況にあっても、市民が安心して暮らし、幸せを感じられるまちを形成していくためには、今後ますます地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進が必要となる。

市民センターにおいては、地域コミュニティ活動の拠点として、その継続や発展に向けた支援に努めるとともに、生涯学習活動の拠点として、その充実や成果を生かす環境づくりに努め、さらには、東日本大震災での経験を踏まえ、地域防災活動の拠点としての機能充実を図っていくものとする。

重 点 目 標

1 地域コミュニティ活動の推進

(1) 地域コミュニティ活動の活性化

ア 地域自らが地域の将来像や課題を共有し、特色のある地域づくりや課題の解決を進めることができるよう、地域コミュニティプラン実現に向けた取組への支援を促進し、住みよいまちづくり推進協議会を中心とした自主的な活動を推進する。

イ 各種コミュニティ団体等の活動を支援するとともに、NPO等との連携を促進しながら、よりよい地域づくりに向けた情報の共有化を進めるなど、地域コミュニティ推進体制の充実、連携強化を図る。

ウ 町内会・自治会への参加意識や自治意識の高揚を図るため、地域団体や関係機関と連携強化を図り、地域コミュニティ活動内容を積極的に発信するとともに、地区会の基盤である町内会・自治会の加入率の向上に努める。

エ 市民自らが意欲を持って地域活動に参加できるよう、一人一役運動を進めるほか、人材育成のための研修会を通して、地域を支えるリーダーづくりを推進する。

(2) 地域コミュニティ活動環境の充実

市民センターにおける様々な活動環境の一層の充実に向け、施設の利用状況や地域の実情等にあわせたコミュニティルームの積極的な利用方法を検討するとともに、施設の利用者数や周辺状況等を踏まえつつ狭あい駐車場の解消に努める。

(3) 地域防災活動との連携

災害発生時の初動対応については、地域における防災組織が重要な役割を担うものであることから、平常時より、地域での防災訓練への支援、地域における災害リスクや連絡体制の確認を行うなど、地域における防災組織との連携を図る。

2 生涯学習活動の推進

(1) 学習機会の充実

生涯学習活動の拠点施設である市民センターにおいては、「個人の要望」する学習による生きがいづくりを進めるとともに、家庭教育への支援や青少年の健全育成、少子高齢化への対応などの「社会の要請」に応じた、現代的課題を取り扱った学習機会の提供に努める。

また、内原中央公民館や各市民センターの一般教養講座・教室・クラブ等、みと好文カレッジの事業を総称した『みと弘道館大学』が市民に親しまれ、生涯学習が市民のライフスタイルに定着し生涯にわたって学び続けることができるような学習機会の提供に努める。

ア 市民ニーズを捉えた学習機会の提供

市民の学習ニーズを把握し、健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、生涯学習のきっかけづくりを図るとともに、それぞれの世代に合った学習機会の提供に努める。

イ 現代的課題を取り扱った講座の開催

変化の激しい社会情勢に対応していくために、成人学級、高齢者学級等の講座に現代的課題を取り扱ったテーマを組み入れるなどの手法により、地域課題を主体的に捉える学習機会の充実に努める。

また、事業実践集を活用しながら、地域団体と市民センターが一体となった協働事業を積極的に展開するよう努める。

ウ 家庭教育学級（ふれあい学級）等の開催

家庭は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、思いやりや善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割がある。

これまでのふれあい学級の内容に加え、未就園児や小学校低学年を中心とする家庭教育の支援を強化し、家庭が本来果たすべき役割を見つめ直し、親の役割、子どもの心の理解、躰など家庭での教育について考え、学び合う家庭教育学級等を開催する。

さらに、茨城県教育委員会が作成発行している「家庭教育ブック」等を活用し、小学校との共催により、就学時健康診断や入学説明会などの機会を捉えた家庭教育講演会を開催し、家庭の教育力向上に努める。

(2) 学習の成果を活かす環境づくり

生涯学習の成果がボランティア活動や地域づくりに活かせるよう支援し、地域内の人材の発掘・育成を行うとともに、地域の活性化や特色あるまちづくりにつながっていくよう環境づくりに努める。

ア 地域資源の活用推進

市内には、歴史的な資産や史跡をはじめ博物館、歴史館などの文化施設、学校や大学などの物的資源やそれぞれの施設に所属する職員などの人的資源があり、豊かな地域資源に恵まれている。このような地域にある資源を活用した事業を開催するとともに、生涯学習の振興に取り組む機関や団体との連携を図りながら、地域資源の有効活用に努める。

イ 学習活動の成果を発表する場の創出

市民センターを会場に開催している講座の展示会や発表会など、学習の成果を発表する場を創出することにより、学習者同士や参加者との交流を拡大させ、新たなネットワーク構築に努める。

ウ 学習の成果を地域活動に活かす仕組みづくり

生涯学習の成果をボランティア活動や地域活動に活かすことが、地域の活性化に大いに役立つものと期待されている。市民センターで学んだ市民が、その成果を地域コミュニティ活動につながるよう人材の育成と活用に努める。

エ 事業評価に基づく事業の推進

市民センターの講座や事業に参加した市民が日常生活の中で、学習の成果をどのように活かし、また、地域の中で、どれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。

市民センターにおいては、実施した講座や事業について自己評価を行うとともに、自己評価をもとに、運営審議会等第三者機関による検証を行い、効果的な事業運営に努める。

(3) 学校、家庭、地域の連携の強化

学校、家庭、地域が目標や課題を共有し、それぞれが連携して対応策について取り組めるシステムを構築し、地域社会全体の教育力の向上に努める。

市民センターにおいては、それぞれをつなぎ結ぶ地域拠点施設としての機能を十分発揮する。

ア 次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む

学校、家庭、地域が相互に連携を図りながら、様々な形で異年齢集団との交流や大人と接する事業など、子どもたちが直接体験する場を提供し、社会全体で次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む活動の推進に努める。

イ 社会全体で支える家庭教育

子どもたちが健全に成長していくためには、良好な家庭環境や社会環境を整える必要がある。そのために、家庭の教育力の向上だけでなく、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの成長を温かく見守りながら、家庭教育を社会全体で支える仕組みづくりに努める。

協議事項(1) 「さきがけ塾」第5期生の募集について

1 「さきがけ塾」の経緯及び課題

(1) 事業概要

ア 経緯

(ア) 講座の開設

平成21年度に本市生涯学習の一層の振興に向け、「水戸市生涯学習推進基本計画」を策定。この計画の生涯学習推進策のひとつとして、地域課題を把握し、その解決法について学び、学んだ成果を地域づくり、まちづくりの活動に活かすことを目指した長期間にわたる講座を創設。講座終了後は、行政との協働で本市主催の講座を企画・立案、運営する。

⇒ 生涯学習サポーターチャレンジ講座「さきがけ塾」であり、講座修了後は、希望により「水戸市生涯学習サポーター」に登録し、行政と協働で活動。

○ 生涯学習サポーターチャレンジ講座「さきがけ塾」

対象者：市内に居住または通勤・通学する18歳以上の方

内容：10月～翌々年9月の2年間で約40回講座を開催

開講時間：水曜日18時30分～20時30分

○ 生涯学習サポーター

「さきがけ塾」を受講し、出席率7割以上の方の中で、登録希望者が、「生涯学習サポーター」としてみと好文カレッジが主催する社会の要請に応える学習講座の企画、運営。

さきがけ塾	学習テーマ	申込者数	修了生	サポーター数
第一期生 (H22.10～H24.9)	①子育て支援(家庭教育) ②地域支援(まちづくり)	33	27	20
第二期生 (H24.10～H26.9)	①暮らしと環境 ②粹な幸齢期	17	14	9
第三期生 (H26.10～H28.9)	①社会の宝育成 ②縁がつなぐコミュニティ	16	13	8
計		66	54	37

※第四期生(H28.10～H30.9)は「参画と協働のひとづくり」をテーマに現在開講中(23名)

(イ) 課題及び見直し検討

長期間の講座であることから、様々な理由による受講者の離脱や修了後のサポーター登録要件等の課題もあり、昨年度、運営審議会において、受講期間を1年間に変更することについて協議、承認済。

2 「さきがけ塾」第5期について(案)

内容：4月または5月～翌年3月の1年間で約20回受講(理論)

受講中、生涯学習サポーターの協働企画講座への参画(実習)

翌年度4月～6月に講座を開催(実践)